

クリスマスの夜に、君
と

おののっきー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

輝子ちゃんの日常的な物語を書いていきたい。タイトルはどっかで変わるかも

目次

クリスマスの夜に、君と

—
1

クリスマスの夜に、君と

世はクリスマス。世界は白で満たされ人々は恋人との世を満喫していた。その中で一人、世界への不満を貯めに貯めて歩いている少女がいた。

(どいつもこいつもイチャイチャイチャイチャイヤがって……聖夜がそんなに特別か、ああん!?いつそ、ブラッディクリスマスに……ダメか)

心に鬱憤を貯めながら、しかしそれを外にこぼさない少女は、早足になりながら自宅へと帰っていった。

「ただいまー……」

誰も居ないと分かっているながらドアの鍵を開け、たくさんのトモダチ（キノコ）が待つてる部屋へと帰る。

「……………あれ？」

玄関に入り、靴を脱ごうとして気づく。靴が一足ある。しかも私のではない、見慣れた靴が。

「おかえり〜輝子ちゃん。」

誰もいないと思っていたリビングから声が返ってくる。それも聞きなれた声。てとてと足音をたてて姿を見せたのは、親友である小梅ちゃんだった。

「小梅ちゃん……………？どうしたの？」

「どうしたのって……………今日はクリスマスでしょ……………あれ？輝子ちゃん、何か機嫌悪い？」

……………一目で見抜かれた。

「だ、だって、ク、クリスマスクリスマスって世間が騒ぎ立てて、恋人達は便乗してイチヤ

イチャイチャイチャ……ヒ……ヒ……

ヒヤツハアアアアアア!!!

そんなにアツアツがいいなら、地獄の炎で焼き尽くしてやるぜええええ!!!」

「はいはい輝子ちゃん、近所迷惑だよ……」

「あ、ごめん……」

ついテンションが上がってヒヤツハーしてしまったが、小梅ちゃんに慣れた様子でたしなめられてしまった……小梅ちゃんには敵わないな……

「ほら、早くリビング行こう?準備もしてあるし。」

「じゆ、準備……?」

小梅ちゃんに手を連れられてリビングへと向かう。小梅ちゃんの手は暖かく、さつきまで外にいて冷えている私の手のかじかみが無くなった。

「おお……」

リビングで待ってたのはこたつの上に彩られた料理、その中心でグツグツと煮えたぎる鍋だった。しかもキノコが散りばめられており、所々に小梅ちゃんが好きな目玉ミートボールも入っていた。

「今日はクリスマスだから、輝子ちゃん家でパーティーしようと思って……驚いた？」

「なんて美味しそうなんだ……小梅ちゃん凄いな……」

「えへへ……♪ほらほら、こたつ入って？」

小梅ちゃんに急かされて、こたつへと潜る。バーニングしていた心がほだされ、ぼわぼわしていく……。

「暖かい……」

「良かった……♪じゃあご飯にしようか……♪」

小梅ちゃんが鍋を通して私の反対側に座る。……

「?輝子ちゃん、立ち上がって、どうしたの?」

私は暖かいこたつから抜け出し、テクテクと歩いていく。向かうのは、私から反対側の席。こたつとお鍋は暖かいが、

「フヒ……こたつの方が、暖かい……」

小梅ちゃんの隣の方が、暖かいな……

「……もう、輝子ちゃんだったら……はい、お鍋♪」

「ありがとう小梅ちゃん。私も……はい。」

互いに互いの腕を盛り、いただきますを言う。小梅ちゃんには、目玉ミートボール多目。

「このあとは、借りてきたDVDみよ？」

「いいよ……キノコ出る？」

「キノコも出るよ……♪」

お鍋を食べ終わり、片付けまで終わって私たちは借りてきたホラーDVDを見ていた。輝子ちゃんの腕の中で。

「フヒ……カップルがまた死んだ……♪ホラーはいい……リア充爆発……フヒ」

私は輝子ちゃんを椅子にして、輝子ちゃんに抱きしめられる形でDVDを見ていた。DVDを見るときはいつもこのような形になつてゐる。

「あ……」

「？輝子ちゃん、どうしたの？」

「いや、今日はクリスマスなのに、小梅ちゃんになにもあげないものがないなつて……小梅ちゃんからは、さつきの鍋だったり料理だったり、色々してもらつたのに……」

……本当にしようがないなあ、輝子ちゃんは。

「じゃあ、私の顔を見て？」

「？こ、こうか……？」

私の顔の上にある輝子ちゃんの顔が、私だけを見てくれている。

「?? 小梅ちゃん……？私の顔に、何か付いてる……う？」

「んーん……♪」

きよとんとした顔も可愛いなあ……輝子ちゃんは気づいてないんだろかなあ……

「あのね、輝子ちゃん。」

「何……？」

輝子ちゃんが一緒にいてくれるだけで、私はとても幸せなんだよ。

「……何でもないよ♪」

「へ、変な小梅ちゃんだな……」

「エへへ……あ、DVD終わっちゃった……続き、見よう？」

「うん……次は、キノコが出るやつがいいな……」